



目 次

[第100回国立10大学理学部長会議及び第21回国立大学理学部長会議開催される](#)

[第2回理学研究科諮問委員会を実施](#)

[第3回物理学の発展動向に関する国際シンポジウム開催](#)

[ポーランド科学アカデミー数学研究所および中国復旦大学数学研究所と学術交流協定を締結](#)

[理学研究科寄附講座「計算分子生命科学講座」及び「生命分子機能学\(塩野義\)講座」開設式・記念講演会開催](#)

[海外からの来訪者](#)

[学会賞等の受賞](#)

[学位授与](#)

[新任教官紹介](#)

[人事異動](#)

[各種委員会委員](#)

[平成16年度科学研究費補助金の申請状況](#)

[行事予定](#)

第100回国立10大学理学部長会議及び 第21回国立大学理学部長会議開催される

第100回国立10大学理学部長会議及び第21回国立大学理学部長会議が平成15年10月16日、17日に筑波大学及び埼玉大学の当番によりKKRホテル東京で開催されました。

16日に開催された第100回国立10大学理学部長会議では、①海外研究・教育拠点形成の取り組みについて、②高等学校新学習指導要領への対応について、③「新学習指導要領による平成18年度の理科出題範囲」の検討状況について、④大学院の改組再編と理学部・理学研究科の将来像について、の議題が協議されました。

17日開催の第21回国立大学理学部長会議では、①高等学校新指導要領への対応方について、②「新学習指導要領による平成18年度の理科出題範囲」の検討状況について、③法人化に伴う労働安全衛生法の取り組み状況について、が協議されました。

いずれの議題も大学あるいは理学研究科・理学部にとって重要な事項であり、活発な意見交換、情報交換が行われました。

第2回理学研究科諮問委員会開催される

理学研究科に有益な意見交換会

大学外部の立場から、理学研究科での各種の取り組みを高く評価

平成15年12月16日に理学研究科諮問委員会が開催された。これは、大学外の諮問委員との意見交換をもとに、理学研究科のさらなる活性化を目指すことを目的に、昨年度より始められた。このような諮問委員会は、全学での設置はあるが、学内の研究科としては唯一理学研究科のみで行われている。

諮問委員会のメンバーは、吉留康夫氏（電通ヤング・アンド・ルビカム株式会社 代表取締役社長）、鈴木武氏（味の素、取締役副社長）、丸山瑛一氏（理化学研究所フロンティア研究システム長）、塩谷喜雄氏（日本経済新聞社 科学技術部門 論説委員）、毛利衛氏（日本科学未来館 館長）、そして、若松澄夫氏（独立行政法人 日本スポーツ振興センター理事）の6人である。今回、残念ながら丸山氏と毛利氏は、都合により欠席となり、4人のメンバーとの意見交換会となった。しかし、結果的にはスケジュールをこなし切れなかったくらい盛況な意見交換会となった。

まず、岡田研究科長の挨拶のあと、各専攻、施設に関わる本年度の活動状況についての説明が行われた。



数学専攻からは、小澤教授が代表を務める、21世紀COEプログラムに採択された旨の報告と共に、本数学専攻が数学分野では国内で3番以内にランクされる研究機関であるとのデータを披露した。また、国際的な数学データベース構築の構想についても説明があり、委員の方からも高く評価された。

物理学専攻からは、加藤教授が説明に立った。現在、学生の理科離れと言われている中でも、特に物理についてその傾向が強い。高校において物理履修率が下がり、現在、20年前の3分の1になっていることのデータが示された。この科学教育のゆがみは、大学教育において是正せざるを得ない点を指摘し、物理学専攻においては、現在北海道大学として採択されている21世紀教育COEの一環として、物理初等教育についての取り組みが披露された。これについては、諮問委員の方からも、新入社員の科学知識のレベルの低下に困惑しているという現状の説明があった。

化学専攻からは、喜多村教授が説明を行った。化学では、長年高校大学連携プログラムを実施しており、高校において、大学の教官と一緒に実験するプログラムを実施していることが報告された。AO入試などで北大を指名して受けに来る学生が複数存在することからも、この取り組みは高校生に大変好評であることがわかる。このことより、高大連携プログラムが化学の教育に大変役立っていることが示された。また、さらに新しい企画を立案し、現在21世紀教育COEに申請中であることも報告された。諮問委員の方からは、この長年の取り組みは高く評価されるべきものであり、化学の教育のみならず、科学一般の教育の普及にも有効であるという意見があった。

生物科学専攻からは、浦野教授の説明があり、現在採択されている21世紀COEプログラム、「ナノとバイオの融合」についての報告があった。バイオの技術を本当に理解するためには、数式上でなく、それを目に見える形で理解する必要があり、そのためにはナノの技術が本来必要になるはずである。このようなことから、目先の目標を掲げるよりもタイトルのような非常に大きな目標を掲げたことを説明した。世界最先端の拠点形成を目指すこの取り組みは、諮問委員の方からも大変評価された。

地球惑星科学専攻からは、鈴木教授と、小山教授が説明に立ち、現在実行中である21世紀COEプログラムについての報告と、これからのプロジェクトの企画について説明し、それについての意見を求めた。また、十勝沖地震では、地震後の経緯としては、今まで観測されたことがない地殻変動が続いており、その研究が続けられているとの報告もあった。諮問委員の方からは、地震や噴火予知といった研究はまだ実用段階でないし、予知に成功する保証もないことが指摘された。さらに予知という観点だけではなく、基礎科学として地震や火山噴火の研究を推進することが重用であり、それが北大の特色となり、社会の要請に応えることになることを意識してほしいとの意見が出された。

この他に、宇宙理学グループからは、羽部助教授が説明に立ち、惑星科学、物理学専攻などを含む宇宙理学専攻の創設計画についての説明があり、現在苫小牧にある電波望遠鏡の現状についても報告があった。諮問委員からは日本に例をみない専攻の計画であることが高く評価された。

テーマ討論では、まず、岡田研究科長から、現在教育、研究の観点から大学全体での組織の見直しと、特に理学研究科での理学院・研究院構想についての説明が行われた。それに対して諮問委員の方からは、企業にあっても組織の変更は絶えず必要であり、そのために苦労した事例についての説明があり、大変貴重なご意見をいただいた。

また、理学研究科の直面する知的財産権の問題について、生物科学専攻、田中助教授から説明があった。特許制度そのものにより、非公開技術となり、そのことが教育に影響を及ぼした事例などが報告された。また現在、そのような知的財産権についてのルール作りが進められていることについての説明があった。諮問委員の方からは、企業における参考になる事例が紹介され、大変参考になる意見をいただいた。また、委員の方からの特許制度自身についても、その本来の趣旨についての意見や、例えば理学研究者であっても特許については常に意識した研究をおこなうべきという提言は傾聴に値するものであった。

全般的に見て、多くのプロジェクトについては、おおむね良い評価であった。しかし、プロジェクトの一部においては厳しい意見を出された場合もあり、現状ではその対策に関して解答が得られないこともあった。しかし、今後その検討を通して、現プロジェクトの改良を進めることが期待される。そしてまさにこうした現状への意見の反映が、諮問委員会の設置意義に沿うことであろう。

このように、諮問委員会は、大変有益な意見交換となった。まだ他にも意見交換したいテーマもあったが、残念ながら時間切れということで閉会した。また、この委員会の開催意義であるが、諮問委員との有益な意見交換という場だけではなく、別の側面があることも実感できた。すなわち、この諮問委員会は、内部の出席者にとって、研究科内部でさまざまなプロジェクトが動いていることを、今更ながらに実感させられる機会でもあった。



第3回物理学の発展動向に関する国際シンポジウム開催

期間：2003年11月11日(火)～12日(水)

場所：北海道大学理学部5号館低層棟大講義室、2階ロビー

本シンポジウムは、物理学の広範囲な分野において研究者間の相互交流を深め、21世紀物理学の新潮流に関する研究討議をすることを目的とするものです。国際会議開催経費（総長経費）ならびに理学研究科国際シンポジウム開催経費等の支援のもと、平成15年度に開始されました。第1回（Part 1）は、理学研究科とロシア科学アカデミーとウラル科学アカデミーとの間の学部間研究交流協定による交流活動の一環として企画され、酸化物高温超伝導体に代表される量子系の凝縮系物理学、素粒子論物理学、原子核物理学を中心にした分野の研究討議がおこなわれました。第2回(Part 2)では、主として宇宙物理学と強相関電子凝縮系の物理学分野について集中的な研究討議が行われました。

今回は、理学研究科国際シンポジウム経費を中心とした支援のもと、複雑液体物理学に関する集中的な研究討議を行いました。この分野は物理学以外の理学分野とも密接に関係しているため、化学、生物科学等を含めた広い分野の研究者を交えたシンポジウムとして企画されました。2日間の開催期間中、7件の海外招待講演を含む17件の講演が行われ、述べ150名の参加がありました。講演者と若手研究者の親睦も目的の一つとして企画されたポスターセッションでは熱心な議論が交わされ、若手研究者には良い刺激になりました。期間中のすべてのセッションは公開で行われ、大学院生のみならず学部学生にとっても国際的な学術的雰囲気を経験する良い機会になりました。



ポーランド科学アカデミー数学研究所 および中国復旦大学数学研究所と学術交流協定を締結

北海道大学大学院理学研究科はポーランド科学アカデミー数学研究所および中国復旦大学数学研究所と学術交流協定を結ぶに到った。いずれの協定も教育、研究などの分野における相互協力を通じ、数学研究、学問、文化の交流に関して共同事業を推進することを主な目的とするものである。

ポーランド科学アカデミー数学研究所との交流は、数学専攻の泉屋教授、石川助教授を中心として、国際的な研究集会 - 主に特異点理論に関する研究集会 - などを通じて、すでに1993年から頻繁に行われてきた。日本 - ポーランド間の研究集会を行うことは、数学専攻のCOEのひとつになっている。(仮想)数学研究所 - 主にネットワークを通じて共同研究を行い、必要に応じて相互訪問あるいはポストドク学生や留学生の受け入れ等を通して研究および教育を共同で行う趣旨の研究所 - の構想も実現する予定である。

中国復旦大学は、日本では京都大学に相当するような、中国の上海にある名門の大学である。この大学の数学研究所との交流は、数学専攻の中村 玄教授を中心としてなされてきた。以下の共同研究および交流の計画がある。

- (i) 非線形双曲型方程式の解の構造に関する研究
- (ii) 様々な逆問題の研究
- (iii) 大学院学生の交流
- (iv) ポストドクターの交流
- (v) 国際研究集会の共同開催

理学研究科寄附講座「計算分子生命科学講座」及び 「生命分子機能学(塩野義)講座」開設式・記念講演会開催

平成15年10月1日、理学研究科生物科学専攻に設置された寄附講座「計算分子生命科学講座」・「生命分子機能学(塩野義)講座」の開設式、記念講演会及び懇親会を10月22日(水)午後3時から5号館低層棟2階大講堂及びファカルティハウス エンレイソウ1階レストランにおいて挙行されました。

開設式、記念講演会及び懇親会には、中村総長をはじめ長田、井上、佐伯の各副学長及び岡田研究科長等の学内関係者並びにサン・マイクロシステムズ株式会社菅原敏明代表取締役会長、塩野義製薬株式会社塩野元三代代表取締役社長等学外関係者が出席されました。

開設式では門出健次助教授の司会で中村総長及び岡田研究科長の挨拶が行われ、続いて中村総長から感謝状の贈呈があり、その後、西村紳一郎教授による同講座の概要及びスタッフの紹介が行われました。

記念講演会では「ポストゲノム時代の生命科学～わが国の政策を中心に～」と題し総合科学技術会議議員 前京都大学総長 京都大学名誉教授 井村裕夫先生と「糖合成酵素・分解酵素の多様性デザイン」と題した長浜バイオ大学バイオサイエンス学部長 名古屋大学名誉教授 郷通子先生の講演が行われました。

引き続き、懇親会では佐伯副学長、菅原会長、塩野社長の挨拶、野村薬学研究科長及び高橋はるみ北海道知事等来賓のスピーチがあり寄附講座の開設を祝いました。



挨拶をする岡田研究科長



感謝状を贈呈(菅原会長へ)



感謝状を贈呈(塩野社長へ)

・寄附講座「計算分子生命科学講座」の紹介

計算科学は、コンピュータの劇的な進歩とともに生命分子をもターゲットとすることを可能にしつつあります。タンパク質の科学や糖鎖の科学に先立って、ゲノム解析の分野では、バイオインフォマティクスという遺伝子の配列と情報学的技術(IT)を融合した手法を用いて大成功を収めました。もはや、複雑怪奇な生命現象の理解にはコンピュータを用いることは不可欠となっています。

2003年10月にサン・マイクロシステムズ株式会社よりの寄附をもとに設置された本講座では、このような生命現象、特に糖鎖が重要な役割を果たしている現象をコンピュータを用いて分子レベルで理解する研究を行っています。糖鎖は細胞の認識や感染と深く関わっており、その配列(構造)とコンフォメーション、その高次構造を変えることで機能を制御していると考えられています。一方、糖鎖の合成と構造解析はその結合様式の多様性もあいまって非常に難しいことが実験的研究を困難にしています。そこで、コンピュータシミュレーションやバイオインフォマティクス的な手法を用いてあらかじめ有力な合成ターゲットなどを予測することによってこれらの研究を飛躍的に加速することが可能となることが期待できます。

例えば、ウイルスが細胞に進入する際には、ウイルスが持つ特定のタンパク質に細胞が持つ糖鎖が結合します。新しいウイルスが見つかった時に感染の際に重要となるタンパク質が特定されれば、進入を阻害する物質の探索をコンピュータを用いて行うことができます。この予測に基づいて実際に物質の合成を行えば、従来カンと経験に頼っていた薬作りは飛躍的に時間短縮が可能となるわけです。また、これらの候補化合物を推測するにあたっては、化合物のデータベースが重要な役割を果たします。糖鎖が果たす機能、物性があらかじめ整理されていることも糖鎖研究を進めるにあたって大切です。そこで、糖鎖及びその関連化合物に関するデータベースに関する研究も行っています。

劇的な進歩を遂げている計算科学ですが、生命現象を扱うには更なる進歩を必要としています。現実には起こっている現象を実験的に検証しつつ研究を進める事が計算科学分野の進歩につながると考えています。本講座では、計算科学のスタッフと実験的研究を行うスタッフがあり、両者の連携によって生命科学分野の研究を加速したいと考えております。また、両スタッフを軸として計算科学、実験科学の他グループとの連携もとりやすく両分野を融合する研究への展開を狙っております。



三浦信明 客員助教授



長堀紀子 寄附講座教員(助手)



5 F 分子設計室

・寄附講座「生命分子機能学(塩野義)講座」の紹介

2003年10月に塩野義製薬からの寄附をもとに設立された本講座では、主に、遺伝情報の翻訳後修飾の意義、特に糖鎖修飾によるタンパク質の機能・構造の制御機構の解明に関する基礎研究を行っています。また、構造生物学分野・有機合成化学分野の研究者と連携して、糖鎖を人工的に付与した新規な糖タンパク質分子の合成に挑戦しています。これらの人工糖タンパク質の性質を調べることで、糖鎖不全(異常)が原因とされる疾患の発症メカニズムの研究や、治療法の開発に役立てていきます。



貞許礼子 客員助教授



福原法夫 客員助教授



越田周平 寄附講座教員(助手)



5 F 実験室



生命分子機能学(塩野義)講座 教官室

◆ 海外からの来訪者

期間：平成15年7月1日～9月30日

受入れ専攻等名>> [数学専攻](#) | [物理専攻](#) | [化学専攻](#) | [生物科学専攻](#) | [地球惑星科学専攻](#) | [前回追加](#)

(受入れ専攻等名：数学専攻)

年 月 日 (期 間)	来 訪 者 (国名・所属・職名・氏名)	目 的
15.10.1～10.6	韓国・ソウル大学・ 準教授・Hyeonbae Kang	「波動方程式族の逆問題」に関する研究打ち合わせ
15.11.2～11.21	ドイツ・ライプチヒ大学・ Post.Doc.・Schlenk Felix	「Floerホモロジー、特異点と変形理論」に関する研究打ち合わせ
15.11.25～11.30	アメリカ・ブラウン工科大学・ 教授・Benjamin B.Kimia	「視覚と映像の幾何解析」に関する研究打ち合わせと講演「On the Local Form and Transitions of the Medial Axis/Shock Graph and Their Role in Object Recognition」
15.11.26～12.3	台湾・Department of Math.and PACM Princeton Univ., Institute for Advanced Study・助教授・ Y. H. Richard Tsai	「視覚と映像の幾何解析」に関する研究打ち合わせと講演「Dynamic Visibility in a PDE Based Implicit Framework」
15.12.3～12.7	ロシア・Institute of Mathematics Moscow State Lomonosov Univ.・ 助手・Alexei Mailybaev	研究及びセミナーのため
15.12.7～12.13	中華人民共和国・浙江大学・ 教授・Qinye Tong	Symposium on current topics on Mathematical Science (COE Workshop 2003)に関する講演及び研究打合せ
15.12.7～12.13	中華人民共和国・浙江大学・ 教授・鮑土守	Symposium on current topics on Mathematical Science (COE Workshop 2003)に関する講演及び研究打合せ
15.12.7～12.13	中華人民共和国・浙江大学・ 教授・肖玲	Symposium on current topics on Mathematical Science (COE Workshop 2003)に関する講演及び研究打合せ
15.12.7～12.13	中華人民共和国・浙江大学・ 教授・翟健	Symposium on current topics on Mathematical Science (COE Workshop 2003)に関する講演及び研究打合せ
15.12.14～12.16	アメリカ・インディアナ大学・ 教授・Eric Bedford	「波動方程式族の逆問題」に関する研究打合せタイトル「Dynamics of Birational mappings of the plane」
15.12.7～16.1.11	イタリア・Univ. of Udine Civil Engineering Department・ 教授・Antonino Morassi	「波動方程式族の逆問題」に関する研究打合せ

(受入れ専攻等名：物理学専攻)

年 月 日 (期 間)	来 訪 者 (国名・所属・職名・氏名)	目 的
15.10.12～10.14	ドイツ・バイロイト大学・教授・ Helmut Brandt	液晶の物理と非平衡統計力学に関する議論 及びセミナー開催
15.10.15～10.17	イギリス・University of Surrey・ Prof.・Kevin Homewood	Si結晶及び発光機構についての討論
15.10.27～11.21	イギリス・オックスフォード大学・ 名誉教授・D.M.Brink	最近の不安定原子核研究におけるクラス ター構造研究の討論
15.11.9～11.14	アメリカ・Naval Research研究所・ 研究員・Kia Ling Ngai	物理学専攻主催国際シンポジウムの講演・ 発表
15.11.9～11.13	アメリカ・Naval Research研究所・ 研究員・Mike Roland	物理学専攻主催国際シンポジウムの講演・ 発表
15.11.10～11.13	ドイツ・レゲンスブルグ大学附属研究所・ 研究員・Richard Buchner	物理学専攻主催国際シンポジウムの講演・ 発表
15.11.10～11.13	アメリカ・国立技術研究所・ 研究員・Chwan.K.Chiang	物理学専攻主催国際シンポジウムの講演・ 発表
15.11.11～11.13	日本・ヘブライ大学・研究員・ 林 義人	物理学専攻主催国際シンポジウムの講演・ 発表
15.11.11～11.13	イスラエル・ヘブライ大学・ 研究員・Paul Ben Ishai	物理学専攻主催国際シンポジウムの講演・ 発表
15.11.11～11.13	イスラエル・ヘブライ大学・ 研究員・Yuri Feldman	物理学専攻主催国際シンポジウムの講演・ 発表
15.11.25～12.1	イタリア・イタリア原子核科学国立研究所 ・研究グループリーダー・D'ADDA Alessandro	共同研究

(受入れ専攻等名：化学専攻)

年 月 日 (期 間)	来 訪 者 (国名・所属・職名・氏名)	目 的
15.10.16	ドイツ・ハンブルグ大学・ 教授・Wilfried A.Kong	研究討論および講演会
15.12.2	スイス・IBMチューリッヒ研究所・ 博士・Heinrich ROHRER	表敬訪問

(受入れ専攻等名：生物科学専攻)

年 月 日 (期 間)	来 訪 者 (国名・所属・職名・氏名)	目 的
15.9.30～10.13	中華人民共和国・天津工業大学・ 教授・陳 莉	「ソフト&ウェット型人工筋肉の創出と生体 代替運動システムへの応用」に関連し、高分子 ゲルの物性評価に関して共同研究を行う
15.10.8～10.13	韓国・マックスプランク研究所・ 研究員・KIM,Byoung-Suh	「人工関節軟骨を目指した超低摩擦・高強度 高分子ゲルの創成」に関連し、高分子ゲルに 関して共同研究を行う
15.10.9～10.31	日本・オーストラリア国立大学・ リサーチフェロー・大西 里 実	「人工関節軟骨を目指した超低摩擦・高強度 高分子ゲルの創成」に関連し、高分子ゲル摩 擦の特性に関して共同研究を行う
15.10.10～10.18	日本・フランス工業物理化学専門高等学校・ CNRSリサーチフェロー・成田 哲 治	「人工関節軟骨を目指した超低摩擦・高強度 高分子ゲルの創成」に関連し、光散乱解析に 関して共同研究を行う
15.10.13～10.24	フランス・フランスCERMAV/CNRS・ 教授・RINAUDO,Marguerite	「ソフト&ウェット型人工筋肉の創出と生体 代替運動システムへの応用」に関連し、生体 高分子の電解質の物性評価についてご教示い ただき、共同研究を行い、セミナーを行う

(受入れ専攻等名：地球惑星科学専攻)

年 月 日 (期 間)	来 訪 者 (国名・所属・職名・氏名)	
15.10.20 ~ 16.3.31	カメルーン・ルリー工科大学環境工学科 研究員・Jules Rostand Dim	21世紀COE特別研究員として「地下水による物質循環機構」をテーマに研究

前回(平成15年7月1日~9月30日)追加

(受入れ専攻等名：物理学専攻)

年 月 日 (期 間)	来 訪 者 (国名・所属・職名・氏名)	
15.9.10 ~ 9.22	オーストラリア・Queen Mary University of London・Senior Resercher・ Andrew Prins	高圧下の実験

[<< Back to TOP](#)

[Next Page >>](#)

◆ 学会賞等の受賞

北海道大学大学院理学研究科化学専攻 佐々木陽一教授は、「分子性集積型金属錯体の合成とその特徴的諸性質の研究(Syntheses and Characteristic Properties of Molecular Metal-Assembled Complexes)」により、平成15年9月25日、錯体化学会から、錯体化学会賞(第1回)を受賞されました。

北海道大学大学院理学研究科化学専攻 喜多村昇教授は、「微小空間における光化学過程に関する研究」により、平成15年11月23日、光化学協会から、平成15年度光化学協会賞を受賞されました。

北海道大学大学院理学研究科数学専攻 儀我美一教授は、「非線形拡散方程式の数学解析」により、平成15年12月4日、井上科学振興財団から、井上學術賞を受賞されました。

◆ 学位授与

平成15年12月25日学位授与者(5名)

(課程博士)

永山昌史(物理学専攻)

Imaging Mechanical Properties of Living Cell by Scanning Probe Microscopy :
Tensional Coordination in Cellular Migration

(主査：川端 和重教授)

小林典仁(化学専攻)

Study on Crystal Design Utilizing the Self-Organizing Properties of the Mellitate Anion

(主査：稲辺 保教授)

井尻 暁(地球惑星科学専攻)

Stable isotopic studies on fluid and gas migration in forearc sediments

(主査：蒲生 俊敬教授)

ラトナカヤ ナリン パラサンナ(地球惑星科学専攻)

Study on molecular carbon isotope ratios of land plant-derived lipids in deep-sea sediments from the
Bering Sea and the North Pacific Ocean

(主査：鈴木 徳行教授)

前田 宜 浩(地球惑星科学専攻)

サブダクションゾーンにおける地震波減衰特性と震源特性に関する研究

(主査：笹谷 努助教授)

◆ 新任教官紹介

ちゅう まん よし ろう
中 馬 吉 郎 (化学専攻機能分子化学講座助手)

(平成15年11月1日採用)



最終学歴：平成13年3月九州大学大学院理学府分子科学専攻博士後期課程修了、
学位：「博士(理学)」
略歴：平成10年4月日本学術振興会特別研究員(DC1)、平成13年5月米国
国立衛生研究所国立癌研究所博士研究員、
専門分野：タンパク質化学、構造生物化学

なが い たか や
永 井 隆 哉 (地球惑星科学専攻地球惑星物質圏科学講座助教授)

(平成15年11月16日昇任)



最終学歴：平成4年1月東京大学大学院理学系研究科鉱物学専攻博士課程中退、学
位：「博士(理学)」、
略歴：平成4年2月大阪大学教養部地学教室助手、平成6年4月同大学大学院理学
研究科宇宙地球科学専攻助手、
専門分野：鉱物学、高圧物質学、回折結晶学

◆ 人事異動

平成15年10月6日付け発令

(採用)
COE(新・自然史科学創成)事務室事務補助員

石川理世

平成15年10月14日付け発令

(採用)
地球惑星科学専攻COE研究員

Anthony Robert Chittenden

平成15年10月17日付け発令

(採用)
地球惑星科学専攻COE研究員

Muttharachchige D P L Francis

平成15年10月21日付け発令

(採用)
地球惑星科学専攻COE研究員

Jules Rostand Dim

平成15年10月24日付け発令

(辞職)
地球惑星科学専攻事務補助員

坂本博子

平成15年10月27日付け発令

(採用)
COE研究推進室事務補助員

前田郁代

地球惑星科学専攻事務補助員

筆染裕子

平成15年11月1日付け発令

(転出)
地球惑星科学専攻地球惑星進化科学講座教授
東京大学海洋研究所教授へ

蒲生俊敬

(採用)
化学専攻機能分子化学講座助手
米国衛生研究所研究員から

中馬吉郎

地球惑星科学専攻COE研究員

加藤亜記

地球惑星科学専攻COE研究員

高藤尚人

地球惑星科学専攻COE研究員

Dick Matthew Hill

(併任)
地球惑星科学専攻地球惑星進化科学講座教授
任期は平成16年3月31日まで
東京大学海洋研究所教授

蒲生俊敬

理学部教授
大学院地球環境科学研究科教授

池田元美

理学部教授 低温科学研究所教授	藤 吉 康 志
理学部講師 先端科学技術共同研究センター講師	黒 岩 麻 里
平成15年11月16日付け発令	
(転入) 地球惑星科学専攻地球惑星物質圏科学講座助教授 大阪大学大学院理学研究科助手から	永 井 隆 哉
平成15年11月17日付け発令	
(採用) 地球惑星科学専攻COE研究員	萩 野 恭 子
平成15年12月1日付け発令	
(採用) 地球惑星科学専攻COE研究員	Tsytulina Katerina
平成15年12月16日付け発令	
(採用) 生物科学専攻産学官連携研究員	阿 部 薫 明
(辞職) COE(新・自然史科学創成)事務室事務補助員	石 川 理 世
平成15年12月17日付け発令	
(採用) COE(新・自然史科学創成)事務室事務補佐員	石 川 理 世
平成15年12月22日付け発令	
(採用) 数学専攻COE研究員	江 孟 蓉
平成16年1月1日付け発令	
(採用) 地球惑星科学専攻COE研究員	井 尻 暁
地球惑星科学専攻COE研究員	Ratnayake Nalin Prasanna

◆ 各種委員会委員

全学関係

組換えDNA実験安全主任者

(15.11.28～17.11.27)

生物科学専攻 助教授 池田 亮

脳科学研究教育センター基幹教員

(15.4.1～19.3.31)

数学専攻 教授 津田 一郎

低温科学研究所共同利用委員会

(15.10.1～17.9.30)

地球惑星科学専攻 講師 遊馬 芳雄

アイソトープ総合センター利用者協議会

(15.12.1～17.11.30)

生物科学専攻 教授 山下 正兼

部局関係

将来計画委員会

(15.11.1～16.3.31)

地球惑星科学専攻 教授 小笹 隆司

倫理審査委員会

(15.10.1～17.3.31)

生物科学専攻 委員長 教授 川端 和重

教授 山下 正兼

教授 幸田 敏明

動物実験委員会

(15.9.25～16.9.24)

化学専攻

教授 坂口和靖

生物科学専攻

教授 山下正兼

教授 加藤敦之

教授 幸田敏明

助教授 栃内新

平成16年度科学研究費補助金の申請状況

種目	平成16年度			平成15年度			前年比増減			
	新規	継続	計	新規	継続	計	新規	継続	計	
学術創成研究費	0	1	1	1	1	-	-1	±0	1	
特別推進研究	3	0	3	2	0	2	1	±0	1	
地域連携推進研究費	0	0	0	0	0	0	±0	±0	±0	
特定領域研究	24	9	33	22	11	33	2	-2	±0	
基盤研究 (S)	10	1	11	9	1	10	1	±0	1	
基盤研究 (A)	一般	20	8	28	18	6	24	2	2	4
	展開	0	0	0	0	0	0	±0	±0	±0
	海外	1	3	4	3	2	5	-2	1	-1
	計	21	11	32	21	8	29	±0	3	3
基盤研究 (B)	一般	36	19	55	42	16	58	-6	3	-3
	展開	0	0	0	0	2	2	±0	-2	-2
	海外	2	0	2	1	0	1	1	±0	1
	計	38	19	57	43	18	61	-5	1	-4
基盤研究 (C)	一般	38	13	51	29	16	45	9	-3	6
	時限	1	0	1	3	0	3	-2	±0	-2
	企画	11	0	11	7	0	7	4	±0	4
	計	50	13	63	39	16	55	11	-3	8
萌芽研究	47	15	62	47	8	55	±0	7	7	
若手研究 (A)	3	1	4	7	2	9	-4	-1	-5	
若手研究 (B)	26	13	39	24	5	29	2	8	10	
合計	222	83	305	215	70	285	7	13	20	

◆ 行事予定

月	日	曜	事 項
1	6	火	学位申請(1月付託)締切
	8	木	全学教育科目授業再開
	8	木	専攻長・学科長会議13:30
	13	火	平成16年度第1学期授業時間割(案)提出締切
	15	木	研究科教授会13:30
	16	金	平成16年度大学院授業科目シラバス原稿提出締切
	16	金	休講日(大学入試センター試験準備)
	17	土	大学入試センター試験(～18日)
	19	月	修士(博士前期)課程及び博士後期課程二次願書受付(～23日)
	20	火	学位申請(2月付託)締切
	28	水	全学教育科目補講期間(～30日)
	29	木	専攻長・学科長会議13:30
	2	2	月
2		月	全学教育科目第2学期授業終了
3		火	全学教育科目第2学期定期試験(～16日)
5		木	研究科教授会13:30
10		火	学位申請(3月付託)締切
12		木	修士(博士前期)課程及び博士後期課程二次入試(～13日)
12		木	3月学位授与予定者の審査報告関係書類提出締切
13		金	修士論文題目提出締切
13		金	卒業・修了予定者の成績提出締切
中旬			学部2年次進級予定者がたのん
16		月	補講集中講義期間(～27日)

	17	火	全学教育科目第2学期追試験(~19日)成績提出締切20日正午
	19	木	全学教育科目定期試験成績提出締切正午
	25	水	北海道大学第2次入学試験(前期日程)
	27	金	研究生・聴講生・科目等履修生願書受付(~3月4日)
3	1	月	春季休業(~4月2日)
	2	火	専攻長・学科長会議13:30
	4	木	入学試験委員会10:00
	4	木	研究科教授会13:30
	4	木	学部教授会15:30
	4	木	修士(博士前期)課程及び博士後期課程二次入試合格発表16:00
	12	金	北海道大学第2次入学試験(後期日程)
	15	月	大学院学生(3月修了者を除く)の成績提出締切
	16	火	専攻長・学科長会議13:30
	25	木	学位記授与式
	30	火	学位申請(4月付託)締切
4	2	金	学部専門科目(卒業者を除く)成績提出締切12:00
	2	金	理学研究科入学式
	5	月	平成16年度第1学期授業開始
	8	木	北海道大学入学式